

平成30年度研究拠点形成事業
(B. アジア・アフリカ学術基盤形成型) 実施報告書

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
(ウズベキスタン)側拠点機関：	ウズベキスタン芸術大学
(中国)側拠点機関：	大連民族大学
(韓国)側拠点機関：	檀国大学校

2. 研究交流課題名

(和文)：現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究 ～サマルカンド紙の復興を中心に～

(英文)：The research for the culture of contemporary Hand-Made Paper and artistic expression.

~With the focus on the revival of Samarkand paper~

研究交流課題に係るウェブサイト：<http://labo.a-mz.com/paper/>

3. 採択期間

平成29年4月1日～平成32年3月31日

(2年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：愛知県立芸術大学

実施組織代表者(所属部局・職名・氏名)：学長・白木彰

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：美術・教授・柴崎幸次

協力機関：豊田市和紙のふるさと

事務組織：愛知県立芸術大学 芸術創造センター、芸術情報・広報課

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：ウズベキスタン

拠点機関：(英文) National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod

(和文) ウズベキスタン芸術大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) Head of International Relations Department,
Senior teacher, Fazilat KODIROVA

協力機関：(英文) Samarkand State University

(和文) サマルカンド大学

協力機関：(英文) The International Islamic Academy of Uzbekistan
(和文) ウズベキスタン国際イスラムアカデミー
協力機関：(英文) Uzbekistan Academy of Sciences
(和文) ウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所
協力機関：(英文) National Library of Uzbekistan named after Alisher Navoi
(和文) ウズベキスタン国立図書館

(2) 国名：中国

拠点機関：(英文) Dalian Nationalities University
(和文) 大連民族大学
コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) Faculty of Design, Professor, MA Chun Dong
協力機関：(英文) なし
(和文) なし

(3) 国名：韓国

拠点機関：(英文) Dankook University
(和文) 檀国大学校
コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Dept.of Korean Traditional Costume, Assistant
Professor, Yoonmee PARK
協力機関：(英文) なし
(和文) なし

5. 研究交流目標

5-1 全期間を通じた研究交流目標

本研究は、ウズベキスタンと日本、中国、韓国の芸術大学において、“手漉き紙”文化と“芸術表現”をテーマに調査・復興・再生を目指し、美術やプロダクト、文化財保存修復に応用できる紙と技法を開発する活動を、芸術大学の連携により成し遂げるための芸術・文化拠点の形成を目指している。

“紙”は、人類の根源的な文化形成における重要なメディアとして発展と交流、多様化を繰り返してきた。しかし、古来から伝わる“手漉き紙”文化は世界的に衰退傾向にあり、それらは大量生産時代の経済性や生活そのものの近代化など需要の変化によるものである。例えばウズベキスタンのサマルカンド紙は、硬筆によるカリグラフィー(書)やミニアチュール(細密画)の支持体として世界で最も美しいと言われた紙であるが約200年前に途絶えている。また、日本の和紙もユネスコの世界文化遺産として国際的な評価を得ているにもかかわらず、現在も衰退傾向が続き、後継者不足、従事者数の減少などに多くの問題を抱えている。

一方、紙の歴史や伝播をみると、タラスの戦い(751年)以降、この拠点形成を目指すアジアの国々は、過去1300年以上さかのぼっても“紙の道”として強いつながりを持つ関係に

ある。近代以前の紙の製法は人力と自然力によるもので、地域性、歴史性を象徴する多くの文化の跡が潜んでおり様々な情報を読み解くことができる。また紙に書(描)かれた文字や図、絵画などの表現は、日本、中国の古典絵画や、ウズベキスタンのミニアチュールなど、文化、経済、宗教など様々な目的の情報伝達を果たしてきた。

この“手漉き紙と芸術表現”の課題を芸術大学の連携により研究することは、国際的な芸術の分野において地域性と時間軸を縦横に結ぶ文化を融和させる取り組みであり、単なる伝統的な紙や技法の復元ではなく、新たな技術や概念を形成し現代ニーズに向き合うメディアとプロダクトを生み出しうる研究交流の形を目指すことができる。また本計画はウズベキスタンのサマルカンド紙の復興を軸に、紙の道(アジアを結ぶペーパーロード)として、日本側のリーダーシップと中国、韓国との協働により、保存修復の文化事業や新素材の開発、新しい芸術活動への応用など“手漉き紙と芸術表現”の意味を現代において再定義し、各国の独自性と多様性の表出による地域文化の醸成を目指すことを目標としている。

5-2 平成30年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

ウズベキスタンにおいては、前述の5月にタシケントで行う会議において、ウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所、ウズベキスタン国立図書館、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学(図書館・博物館)、イスラム文明センター、イマーム・ブハリ、イマーム・テルミジ記念国際科学研究センターなどの機関と、古い写本紙片や繊維の提供を求める許可を得るためのより強固な研究協力体制の構築を目指している。これらの機関は、ウズベキスタンにおいて18世紀以前の写本を多く所有しており、多くの事例の調査を促進することにより不明な点が多いサマルカンド紙の解明促進を目指す。また、ウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学とは、愛知県立芸術大学との本研究に関するMOU締結などを行う見込みであり、研究協力体制に関しては大きな広がりを見せている。また、同5月に、サマルカンド大学の要望により本研究のセミナーを開催する予定である。

中国の大連民族大学では、11月にS-2中国セミナーを実施予定である。同セミナーにおいては、“紙の伝播と多様性”をテーマとして、本事業の2年目の共同研究成果の報告とセミナー、展覧会を開催する予定である。

韓国の檀国大学校とは、本事業ではセミナーの開催は行わないが、12月以降、愛知県立芸術大学と豊田市との共同研究(本事業経費外)において、手漉き紙と芸術表現をテーマとした「和紙素材の研究展VI+韓紙」を開催し、本事業のテーマにおいても国際交流の場を設定している。

<学術的観点>

200年前に途絶えたサマルカンド紙の解明に向けての調査は、本事業で取り組む“手漉き紙と芸術表現”という、紙そのものや表現技法に関する研究であり、ウズベキスタンでも研究の事例が少ない。現状のサマルカンド紙の復興プロジェクトでは、原料は桑で製紙し、米粉を塗布し磨いて制作するが、これまでの調査では綿の古布を原料とした事例が多く、定説

と食い違っている。ウズベキスタン内における写本の調査研究は、主に本に書かれた内容の調査が主体で、紙に原料や性質、どのように制作された紙であるかなどは、専門家レベルにおいても、明確なサマルカンド紙の定義に至っていない。

これまでも東洋学研究所などにおいては顕微鏡調査などの事例はあるようだが、検査に費用や時間がかかることから調査例が少なく、本研究で行う携帯マイクروسコープによる量的調査と、そこで判明する異なる繊維形状の事例を日本に持ち帰り厳密に調べ上げる質的調査は、サマルカンド紙の解明に新たな知見をもたらすのではないかと考えている。さらにこの調査方法は、紙の道として関連する R-2、R-3、R-4 の調査結果と融合すれば、アジアを中心とする紙の伝播と多様性という点で新たな知見が見出されることにも注目したい。

また書写や細密画の描画技法の探求も行っているが、これまでウズベキスタン内での調査においては、海外の美術館・博物館に見られるイスラム美術などの芸術表現として総合的に最高レベルの作品がウズベキスタンでは見つからず、非公開、或いは海外に離散し所有していない可能性があることがわかった。これらの観点から、かつてウズベキスタンで制作された優れた細密画作品に関しても体系的に調査する必要がある。本年度は海外事例も含めその概要を把握したいと考えている。

<若手研究者育成>

現在、本研究メンバーは、若手教員主体の参画において実施しており、①【展覧会】、②【プロジェクト研究の推進】、③【大学院博士（前期・後期）課程などの授業、研修、留学の活性化】などを念頭に行っている。

共同研究においては、サマルカンド紙の解明や歴史研究、細密画表現や金彩の研究など、若手研究者とテーマを分担しながら取り組んでおり、今後の成果発表なども積極的に実施する予定である。また本年度は博士前期後期課程学生修了生の研究参画も積極的に進めていく予定である。

本年度の S-2 中国セミナーにおいては、展覧会や共同研究の報告など、若手研究者に広く研究成果や作品発表などの機会を設定する予定である。

また、5月に実施する、サマルカンド大学のセミナーでは、紙の研究と古く朽ち果てた写本の修復方法の検討も依頼されており、日本の和紙を使った修復方法の研究も予定している。

さらに12月以降、前述の韓国で実施する「和紙素材の研究展VI+韓紙」を開催し、本研究の成果発表と合わせ、幅広く若手研究者が出品できる国際交流展を計画している。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

本研究の進度に合わせ、愛知県立芸術大学の和紙工房の充実を計画している。サマルカンド紙の復元研究に必要であるホーレンダーピーターを同大学法人予算により新たに導入し、手漉き紙と芸術表現の研究の活性化や、綿など布由来の紙の制作にも取り組める体制の構築を予定している。

また、本年10月から来年1月までの期間において、愛知県立大学との連携による、公開講座「紙の道の文化史—正倉院からサマルカンドまで」を本研究と関連づけて計画しており、学術講演会1回、公開講座4回を開催する予定である。

6. 平成30年度研究交流成果

<研究協力体制の構築>

本年度の成果は、特にウズベキスタン内で本研究の認知度が広がり、協力体制の一層の充実など、サマルカンド紙の解明への道筋を明確なものにした。まず平成30年5月に、これまで交流のあったウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所（タシケント）、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー（タシケント）、サマルカンド大学（サマルカンド）と、本研究の推進および、サマルカンド紙の解明に関するサンプルの提供などの条項を含むMOUの締結を行った。

また、5月にタシケントとサマルカンドにおいてサマルカンド紙研究に関する円卓会議「古い写本の紙片や繊維の提供を呼びかける会議」（IBC タシケントホール）、及びサマルカンド大学において同セミナーの開催を実施し、研究の周知と協力を呼びかけた。その中で本研究の意義、目的、これまでの研究経緯説明と議論を行い、ウズベキスタンの文化資産としてのサマルカンド紙の研究意義に幅広い周知を得ることができた。上記のMOU締結による機関に加え、タシケント国立図書館、ウズベキスタン芸術アカデミー、サマルカンド大学（図書館・博物館）と、古い写本紙片や繊維のサンプルの提供を受ける許可を得るための、より強固な研究協力体制を構築することができた。これら機関は、ウズベキスタンにおいて18世紀以前の写本を多く所有しており、今後多くの事例調査を促進することが可能となる。

さらに、平成31年2月に、ウズベキスタン芸術アカデミー、タシケント国立図書館とMOU締結を行った。よって、既に拠点校であるウズベキスタン芸術大学と本年度のMOUの締結により計6件となり、日本側研究拠点としての愛知県立芸術大学との研究協力体制の構築は大きく前進した。

中国の拠点、大連民族大学においては、11月にS-2中国セミナーを実施し、“紙の伝播と多様性”をテーマとして、サマルカンド紙に関する報告と、ウズベキスタンの細密画についての報告など、紙と芸術表現を通じて、展覧会、研修会を含む中国紙の調査なども実施した。古い紙の研究事例が少ないのは中国紙も同様で、大連民族大学においては、古来の紙や伝統的な紙などにおける調査は積極的に調査を行っている。

また韓国の檀国大学校では、本事業のセミナーは開催しないが、12月、愛知県立芸術大学と豊田市との共同研究（本事業経費外）において、手漉き紙と芸術表現をテーマとした「和紙素材の研究展VI+韓紙」を開催し、本事業のテーマについて韓国内でも周知を広げることができた。さらにアジア民族造形学会秋期学術セミナー（ソウル国家無形文化財伝授会館・ソウル）において、柴崎幸次“和紙素材の研究 日本の和紙と照明”の特別講演を実施した。

（12月8日（土）13:00~16:00）紙と芸術表現を中心に、本プロジェクトに関しても報告を行った。

<学術的観点>

200年前に途絶えたサマルカンド紙の解明に向けての調査は、本年度のMOU締結などにより、古い写本等の紙片サンプルの提供を受けることが可能になった。日本に持ち帰り厳密に調べる調査は、今年度、計19点の繊維成分の調査を実施することができた。

これらの調査により、現状のサマルカンド紙の復興プロジェクトでは、原料は桑という定説であったが、13世紀から15世紀のものが、麻（大麻、またはリネン）の原料が検出されることが多く、16世紀から19世紀に関しては、コットンの原料が検出されることが多いことがわかった。現状の調査では、まだ桑など靱皮繊維を使った紙の事例は見つかっていない。

また、ウズベキスタン以外の地域でも、パピルスと古紙の収集で著名なウイーンのパピルスミュージアムが本研究に協力し、パピルスと古紙の収集で著名なライナー・コレクション（同ミュージアムに保管されているパピルス、パーチメント、また古くは9世紀の紙のコレクション）の中から12点を、サマルカンド紙と同様の古い紙片に関する調査を実施することができた。結果は、そのほとんどが布を由来とした麻系の繊維であり、これは、主に文献面から調査したヨセフ・フォン・カラバチェックが、単行書*Arab Paper*

（1887年）の中で亜麻布の繊維であったと指摘するサマルカンド紙の記述に一致する。よって、これまでの調査では、未だ桑原料が検出されず、サマルカンド紙という定説とは食い違う結果となってきた。しかし紙質調査は、現段階では初期的なものであり、今後さらに評価サンプルを増やすことなどにより、紙の生産の為の原料の多様性をより明確に把握できると考えている。

さらに、保存修復の観点から書写や細密画の描画技法の探求も行っている。これまでウズベキスタン内での調査においては、かつてウズベキスタンの工房で作られたといわれる細密画なども、海外の美術館・博物館に見られるような最高レベルの作品がウズベキスタンでは見つからず、非公開、或いは海外に散逸し本国にて所有していない可能性があることがわかった。これらの観点から、ウズベキスタンで制作された優れた細密画作品に関しても体系的に調査し明らかにする必要がある、今度は海外のイスラム美術などの芸術表現にも注目し、概要を把握すべきであると考えている。

<若手研究者育成>

本研究の参加者は、各拠点において若手教員や研究者の参画を積極的に推奨し実施しており、博士前期課程、後期課程の学生の研究参加も積極的に推奨している。共同研究においては、サマルカンド紙の解明や歴史研究、細密画表現や金彩の研究など、若手研究者とテーマを分担しながら取り組んでおり成果発表なども実施した。

S-2 中国セミナーにおいては、展覧会や共同研究の報告など、若手研究者に広く研究成果や作品発表などの機会を設定した。レクチャーでは、鈴木（博士後期課程学生、非常勤講師）による「メトロポリタン美術館所蔵のミニアチュールについての報告」、や岩田（博士後期課程平成29年修了者）「平安仏画を支えた素材と技法について」、周（博士前期課程）「映像作品：中国の伝統的な手漉き紙—宣紙、竹紙」などの若手研究者による発表を実施した。また、11月の公開講座では、阪野（愛知県立芸術大学准教授）「紙の使い方—日本画と修復—」による講座を実施した。

さらに12月以降、前述の韓国で実施した「和紙素材の研究展VI+韓紙」では、大学院の授

業（特別研究、和紙素材の研究）を通じ幅広く若手研究者が出品できる国際交流展としており、博士前期・後期課程及び近年の修了生の34名展示参加を実現している。また本展は平成31年3月、日本においても帰国展を名古屋市民ギャラリー矢田で実施した。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

平成30年10月、学術講演会「紙の道の文化史—正倉院からサマルカンドまで」を愛知県立大学と共同で開催した。プロローグとして、サマルカンド紙に関する調査概要を含む講演を柴崎が行った。また、世界の紙の伝播について、一般の方々にもわかりやすく解説する公開講座シリーズを開催した。

平成30年12月、愛知県立芸術大学の和紙工場の充実をはかるため同大学法人の予算によりホーレンダービーター（製紙において、原料をすりつぶす工程〔叩解〕を行う機械）の導入を実施した。これによりサマルカンド紙の復元研究に必要な布を由来とした麻、綿などの紙の制作に着手することができた。今後、幅広い素材での製紙実験に取り組む事により、修復用のサマルカンド紙製作などに活用したい。

研究協力体制の広がりに合わせて、各拠点にて紙の制作工房が設置されている。ウズベキスタン芸術大学では、愛知県立芸術大学の指導で紙漉き工場の整備を進めているが、本事業において中国で製作した新しい簀桁を提供・貸与している。その他、ウズベキスタンのミニアチュール作家 Toshev Davron 氏も、ブハラに新たな紙漉き工場の設置に取り組んでいることなど、ウズベキスタン全体として紙の制作環境の充実がみられ紙の文化性の価値が見直されている。

また、ウズベキスタン内はユネスコの世界遺産の宝庫として、青のモスクや霊廟など、幾何学模様が美しい文化があるが、タイルと共に内壁にも幾何学模様が描かれた紙が使われており、タイルなど陶磁器の表現を含むウズベキスタンのブルーの顔料に関しても注目したい。

<今後の課題・問題点>

サマルカンド紙の歴史研究において、ウズベキスタンでは旧ソ連の研究者による書籍等も知識として広まっているが、古い研究の為、伝承による事柄や、検証方法の問題もあり、現在の研究にそのまま事例参照するには問題がある部分もみられる。このようなサマルカンド紙の研究事例に関する再調査はさらに必要である。

古い紙の画像の収集に関して、現在ウェブサイトを使った画像転送システムの構築を目指している。さらに、紙の繊維画像の解析は、人工知能の活用も視野に入れ取り組む予定である。これにより、世界各地で顕微鏡写真の画像収集が可能になり研究が加速する可能性があるが、世界各地でインターネット環境の違いもあり、先進国の状況とは違うことも視野に入れなければならない。

また3年目の課題として、この拠点形成事業をより発展させる関連研究にも取り組む計画であるが、その際の研究協力体制の構築においては、若手研究者の参加を積極的に呼びかけ、国際交流の経験を蓄積できる事業の継続に努めたい。

7. 平成30年度研究交流実績状況

7-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成29年度	研究終了年度	平成31年度
共同研究課題名	(和文) サマルカンド紙に関する調査 (英文) The research for the Samarkand paper				
日本側代表者 氏名・所属・ 職名・研究者番号	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1				
相手国側代表者 氏名・所属・ 職名・研究者番号	(英文) (ウズベキスタン)Fazilat KODIROVA, National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod, Senior teacher, 2-1				
30年度の 研究交流活動	<p>サマルカンド紙がどのような紙であったか解明する共同研究であるが、主に日本側が研究を進め、ウズベキスタンの拠点や研究参加者は、検証サンプルの収集などに協力し研究を進めている。また、紙の実施制作も行い、ウズベキスタン側と定期的に情報交換を行っている。</p> <p>平成30年4月～31年1月 [紙の分析調査]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県紙産業技術センターにて、昨年度収集したサマルカンド紙サンプルの原料分析を実施し結果を得た。対象はサマルカンド紙等9点(タシケント・イスラムアカデミーから協定に基づき提供(17c 欧州、13c～18c サマルカンド4点、18c ブハラ2点、18c～19c コーカンド2点)) ・平成30年9月：同調査をサマルカンド紙等10点(タシケント国立図書館2点、サマルカンド大学3点、コーカンド郷土史博物館1点、ブハラ国立図書館4点を協定に基づき提供)に対して実施し結果を得た。 ・平成31年1月：同調査をアラブ地域の9世紀から11世紀の紙資料を対象に、計10点(ウイーンパピルスミュージアム所蔵)に対して実施し結果を得た。主に柴崎、鈴木が担当した。 <p>5月 [共同研究] サマルカンド紙に関する調査(写本・ミニアチュール調査)をウズベキスタンのタシケント、コーカンド、サマルカンド、ブハラで実施した。またタシケントにおいては“古い写本の紙片や繊維の提供を呼びかける会議”を開催し、研究趣旨の周知と研究協力について呼びかけた。柴崎、鈴木、大柳、岩田を8日間派遣した。</p> <p>サマルカンド紙に関する調査として、科学アカデミー東洋大学で、古い写本の調査を行った。タシケント・イスラムアカデミー、サマルカンド大</p>				

	<p>学、タシケント国立図書館、コーカンド郷土史博物館、ブハラ国立図書館において写本の調査と原料分析用サンプル紙片を入手した。</p> <p>10月：〔公開講座等〕 学術講演会「紙の道の文化史—正倉院からサマルカンドまで」のプロローグとして、世界の紙の伝播とサマルカンド紙に関する調査概要に関する講演を柴崎が行った。</p> <p>11月：〔セミナーでの報告・展示開催〕 中国セミナー（大連民族大学）において、サマルカンド紙調査報告および議論を行った。日本から柴崎、鈴木、佐藤、岩田、大柳、兪を中国へ5日間派遣した。</p> <p>10月：〔公開講座等〕 公開講座「紙の道の文化史—正倉院からサマルカンドまで」にて、これまでの調査概要を含めた講演を行う。柴崎が企画に協力し、阪野が講演を行った。</p> <p>2月〔共同研究〕 サマルカンド紙に関する調査（写本・ミニアチュール調査）をウズベキスタンのタシケント、ヒヴァ、サマルカンド、ブハラで実施した。</p> <p>サマルカンド紙に関する調査として、ウズベキスタン芸術アカデミー、科学アカデミー東洋大学、タシケント・イスラムアカデミー、サマルカンド大学、タシケント国立図書館、ブハラ国立博物館において写本の調査と原料分析用サンプル紙片を入手した。科学アカデミー東洋大学、タシケント・イスラムアカデミー、タシケント国立図書館に、顕微鏡カメラを貸与し、古い写本の撮影協力の促進を促すミーティングを行った。</p> <p>12月～1月：〔試作〕 愛知芸大和紙工房にて、サマルカンド紙試作実験を行う。ホーレンダービーターの導入により布（綿、亜麻）の紙の制作を実施した。</p>
<p>30年度の 研究交流活動 から得られた 成果</p>	<p>日本とウズベキスタンとの共同研究により、古い写本やミニアチュールについての調査を実施し、サマルカンド紙がどのような紙であったかが徐々に明らかになってきている。本年度の研究において、これまでサマルカンド紙の原料は、桑という説が強かったが、15世紀以前の紙片では麻繊維が検出されることが多く、それ以降は、綿繊維が多くなる。また、繊維以外の不定形物質の混在などが観察されているが、これらは澱粉質などの物質の可能性が高いことがわかってきた。今後は、〔1次調査〕の目視観察と携帯型顕微鏡カメラにより撮影を幅広く行う仕組みを活用し、検証の量を増やしサマルカンド紙の実態の解明を推進する。</p>

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 29 年度	研究終了年度	平成 31 年度
研究課題名	(和文) 中国紙に関する調査 (英文) The research for the Chinese paper				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) (中国) MA Chun Dong, Dalian Nationalities University, professor, 3-1				
30年度の 研究交流活動	<p>中国紙がどのようにサマルカンド紙に関連しているか検証する為の共同研究であり、日本側と中国側が研究を進めている。本年は、大連、杭州近郊地域の宣紙、竹紙の調査を行った。また、中国紙は、中国西方の紙文化に関しては不明な点が多く、現状での中国紙の研究状況を明確にすることを当面の課題としている。</p> <p>6月 [共同研究] 竹紙に関する調査。朱中華氏の竹紙製作工房（杭州市富阳区大同村）の見学および製紙方法に関する意見交換を行った。柴崎、周の2名を3日間派遣した。また、大学院の授業の一環として調査を実施した。</p> <p>10月 [共同研究] 宣紙に関する調査。南京博物館、小嶺村宣紙製紙工場・中国宣紙博物館の視察調査を実施した。中国セミナー参加メンバーにて、共同調査を実施した。柴崎、佐藤、鈴木、岩田、兪、大柳、周（日本）、Bekhzod Khadjimetov、Dilfuza Djumaniyazova、Fazilat Kodirova（ウズベキスタン）、周、金、王（中国）、朴（韓国）が参加した。</p>				
30年度の 研究交流活動 から得られた 成果	<p>中国を代表する宣紙の製紙工程に関しては、これまで日本では資料が少なかったが、工程を整理し、映像資料としてまとめることができた。また、竹紙に関しても同様に、日本では資料が少ないが、工程を整理し映像資料としてまとめることができた。</p>				

整理番号	R-3	研究開始年度	平成 29 年度	研究終了年度	平成 31 年度
研究課題名	(和文) 韓国紙に関する調査 (英文) The research for the Korean paper				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授 1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor 1-1				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) (韓国) Yoonmee PARK, Dankook University, Assistant Professor 4-1				
30年度の 研究交流活動	<p>韓国紙がどのようにサマルカンド紙に関連しているか検証する為の共同研究であり、日本側と韓国側が研究を進めている。韓紙は、日本の手漉き紙とも関係が深い、その歴史は調査の過程であり、現在の研究状況を明確にすることを当面の課題としている。</p> <p>11月：[セミナー・展示開催] 中国セミナー（大連民族大学）において、韓国紙の報告を行い、参加者と議論を深めた。韓国の朝鮮王朝実録の複製本制作の展示を行った。</p> <p>12月：[共同研究] 韓紙に関する調査を行った。（本事業経費外）朝鮮王朝実録の復元に携わった紙漉工房を訪問した。（1）原州韓紙（江原道 原州市 戊実洞）、（2）安東韓紙（慶尚北道 安東市 豊山邑 素山里）。拠点校である壇国大学校、朴助教授が企画した。日本からは、大学院生、卒業生など14名が参加した。</p> <p>12月：[学会発表] 柴崎幸次 “和紙素材の研究 日本の和紙と照明”について講演を行った。手漉き紙と芸術表現、紙の伝播について講演を行った。（本事業経費外）壇国大学校、朴が企画し、趙恩實 Cho Eun-sil、洪 現周 Hong Hyun-ju が韓紙について講演した。</p> <p>12月：[展覧会開催] 豊田市との共同研究において「和紙素材の研究展VI+韓紙」（本事業経費外）を開催した。博士前期・後期課程及び近年の修了生の34名が展示に参加した。韓国（ソウル仁寺洞）ギャラリーラメール、12月5日～10日開催した。</p> <p>3月：[展覧会開催] 「和紙素材の研究展VI+韓紙」帰国展を開催した。日本（矢田市民ギャラリー）3月19～24日開催。</p>				
30年度の 研究交流活動 から得られた 成果	<p>韓国での、展覧会や学会発表などを通じ、様々な紙研究者や芸術家に本研究の内容を発表することができた。手漉き紙と芸術表現において研究交流活動を推進することができた。</p> <p>また古来の韓国紙は、現在朴が行う韓国の朝鮮王朝実録の複製本制作事例から、李朝時代の最高級を漉く方法としてウェイバルという横漉きの方法が復元されている。またその他の製造工程においても、過去の方法に忠実な再現を試みている。これらの方法と日本の手漉き技法との比較研究も重要な視点であることがわかった。</p>				

整理番号	R-4	研究開始年度	平成 30 年度	研究終了年度	平成 31 年度
研究課題名	(和文) サマルカンドから伝播した洋紙文化の調査				
	(英文) The research for Western paper culture propagated from Samarkand				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1				
	(英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1				
相手国側代表 者 氏名・所属・職	(英文)				
	(ウズベキスタン) Fazilat KODIROVA, National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod, Senior teacher, 2-1				
30年度の 研究交流活動	9月：ウイーン、パピルスミュージアムにて、古紙の調査を実施した。 ウズベキスタン以外の地域でも、パピルスと古紙の収集で著名なパピルス ミュージアムが本研究に協力し、パピルスと古紙の収集で著名なライナ ー・コレクション12点を、サマルカンド紙と同様の古い紙片に関する調査 を実施した。主に柴崎が実施した。				
30年度の 研究交流活動 から得られた 成果	ライナー・コレクション関連施設（パピルス・ミュージアム）を視察し、欧 州に紙が伝わったとされる 13c に近い紙を調査した。中央アジアからヨーロ ッパの 9～10c、特に古い紙を選んだ 13 種類の紙片(繊維)を調査した。これら の紙はライナー・コレクションの最も古い紙とする、記録媒体がパピルスか ら紙に切り替わる時期のものである。 結果は、そのほとんどが麻系の繊維であり、これは、主に文献面から調査し たヨセフ・フォン・カラバチェックが、単行書 <i>Arab Paper</i> (1887 年) の中で 亜麻布の繊維であったと指摘するサマルカンド紙の記述に一致することが 明らかになった。				

7-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究 ~紙の伝播と多様性~」ウズベキスタン(サマルカンド) セミナー
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “The research for the culture of contemporary Hand-Made Paper and artistic expression.”
開催期間	平成 30 年 5 月 14 日 (1 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) サマルカンド大学
	(英文) Samarkand State University
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・ 研究者番号	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1
	(英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・ 研究者番号 (※日本以外 での開催の場合)	(英文) Muhtor Nasirov, Samarkand State University, Vice-Rector, 2-13

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (ウズベキスタン)		備考
		A.	B.	
日本	A.	4	32	
	B.	2		
(ウズベキスタン)	A.	1	8	
	B.	40		
合計 〈人／人日〉	A.	5	40	
	B.	42		

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※人／人日は、2／14 (= 2人を7日間ずつ計14日間派遣する) のように記載してください。

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。

セミナー開催の目的	<p>本事業の研究課題「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究」に関する、ウズベキスタンでの2回目のセミナーであり、サマルカンド大学・図書館にて実施し、サマルカンド紙の解明に焦点をあてる。古い写本や細密画の紙に関する調査報告とサマルカンド紙に関する議論の場として開催する。</p> <p>さらにセミナー参加者に個人で所蔵する古い本などを持ち寄り参照することや、今後の古書の修復方法など議論する。</p>		
セミナーの成果	<p>セミナーは、サマルカンド国立大学において、2月に行ったタシケントでのセミナーの内容の報告及び、サマルカンド紙研究に関する円卓会議「古い写本の紙片や繊維の提供を呼びかける会議」として、研究の周知と協力を呼びかけた。その中で本研究の意義、目的、これまでの研究経緯説明と議論を行い、ウズベキスタンの文化資産としてのサマルカンド紙の研究意義に幅広い周知を得ることができた。参加者は大学関係者及び学生40名、サマルカンド紙に関する興味のある一般の参加もあった。</p> <p>参加者 柴崎、鈴木、岩田、大柳、鮎京 通訳ムノジャット</p>		
セミナーの運営組織	<p>サマルカンド大学と愛知県立芸術大学が共同で行う。また事務支援は、サマルカンド大学・図書館及び愛知県立芸術大学学務部芸術情報広報課が行う。</p>		
開催経費 分担内容 と金額	日本側	内容 国内旅費、外国旅費、謝金、消耗品購入費	金額 1,307,149円
	(ウズベキスタン)側	内容 セミナー会場提供、開催費用	

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究 ~紙の伝播と多様性~」中国セミナー (英文) JSPS Core-to-Core Program “The research for the culture of contemporary Hand-Made Paper and artistic expression.” ~Propagation and Diversity of Paper~”China seminar
開催期間	平成 30 年 10 月 30 日 ~ 平成 30 年 11 月 1 日 (3 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 中国、大連、大連民族大学 (英文) Uzbekistan, Tashkent, National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・ 研究者番号	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・ 研究者番号 (※日本以外 での開催の場合)	(英文) MA Chun Dong, Dalian Nationalities University, Professor, 3-1

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (中国)		備考
		A.	B.	
日本	A.	7/ 35		
	B.	0		
ウズベキスタン	A.	3/ 15		
	B.	0		
中国	A.	3/ 15		
	B.	80		
韓国	A.	1/ 5		
	B.	0		
合計 〈人／人日〉	A.	14/ 70		
	B.	80		

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※人／人日は、2 / 14 (= 2 人を 7 日間ずつ計 14 日間派遣する) のように記載してください。

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>本事業の研究課題「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究」に関する、第2回目のセミナーであり、~紙の伝播と多様性~をテーマに、サマルカンド紙の解明や同時代の中国紙に関する研究を深めることが目的である。また、和紙、韓国紙に関連の調査報告を行う。</p> <p>サマルカンド紙に関しては、特に古い写本やミニアチュール紙の調査報告と、各国の紙の比較など実施した結果を報告する。さらに参加研究者のパネル展示、ワークショップ、展示（手漉き紙と芸術表現に関するもの）などを実施する。</p>
<p>セミナーの成果</p>	<p>中国セミナーは、下記の内容で実施した。</p> <p>10/30（火）デザイン学院ロビーの展示搬入、デザイン学院内の研究室を見学、一階ロビーで展覧会開始の挨拶（周、デザイン学院院长、副院长、柴崎）とセミナーメンバーの紹介を行った。</p> <p>午後から、セミナー：「現在に生きる手漉き紙と芸術表現の研究～サマルカンド紙の復興を中心に～」開幕し下記のレクチャーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー1：柴崎「サマルカンド紙の現在」 <p>研究の概要とサマルカンド紙の調査結果を中心にこれまでの研究成果を発表。アジアの紙サンプルを貼った世界地図カードを当日配布し、世界の紙の伝播について講演した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー2：Bekhzod Khadjimetov「ウズベキスタンの細密画」 <p>ウズベキスタンの細密画の歴史に関するレクチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー3-1：朴「朝鮮王朝記録書の復元研究について」 ・レクチャー3-2：鈴木「メトロポリタン美術館所蔵のミニアチュールについての報告」、岩田「平安仏画を支えた素材と技法について」 ・レクチャー3-3：佐藤「文字のデザインと素材について」 ・レクチャー3-4：周「中国国内の紙工房とその製法について」 <p>・周業欣、「映像作品：中国の伝統的な手漉き紙—宣紙、竹紙」など発表を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー展覧会閉幕挨拶、参加証書授与。 <p>交流会</p> <p>10/31、11/1、エクスカージョン 南京博物館 大連～空路で南京に移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南京博物院各自見学

	<p>中国宣紙博物館、上海博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小嶺村宣紙製紙工場見学 ・曹一松氏の簞編み工房着、簞編みや竹の加工の見学 ・宣紙博物館見学 <p>バスで上海へ移動</p> <p>セミナー参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本：柴崎幸次、佐藤直樹、鈴木美賀子、浦野友理、岩田明子、兪期天、大柳陽一、周業欣 ●ウズベキスタン：Bekhzod Khadjimetov、Dilfuza Djumaniyazova、Fazilat Kodirova ●中国：周思昊、金青松、王玲 ●韓国：朴允美 <p>セミナーは大連民族大学で行い、同大学のネットワークを通じて、古来の中国紙研究と本研究のテーマである“紙からつくる芸術表現”に関する目的の周知につながるセミナーとして開催した。関係国の拠点機関でセミナーを行うことにより、各国の紙文化への理解を深めるとともに、本事業の協力体制を強固にし、研究交流活動から関連した研究の推進や教育環境の整備を誘発できる成果があがることを目標に実施した。</p>		
セミナーの運営組織	大連民族大学と愛知県立芸術大学が共同で行う。また事務支援は、大連民族大学事務局及び愛知県立芸術大学学務部芸術情報広報課が行う。		
開催経費 分担内容 と金額	日本側	内容 国内旅費、外国旅費、謝金、消耗品購入費 デザイン・印刷費	金額 1,383,547 円
	(中国) 側	内容 セミナー会場提供、中国国内開催費用 中国国内研究者旅費	

8. 平成30年度研究交流実績総人数・人日数

8-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元	四半期	日本	ウズベキスタン	中国	韓国	オーストリア (第3国)	合計
		1		5 / 41 (/)	1 / 5 (/)		
2						1 / 4 (/)	1 / 4 (0 / 0)
3				6 / 32 (/)			6 / 32 (0 / 0)
4			3 / 22 (3 / 3)				3 / 22 (3 / 3)
計			8 / 63 (3 / 3)	7 / 37 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	1 / 4 (0 / 0)	16 / 104 (3 / 3)
ウズベキスタン	1						0 / 0 (0 / 0)
	2						0 / 0 (0 / 0)
	3			3 / 15 (/)			3 / 15 (0 / 0)
	4						0 / 0 (0 / 0)
	計			3 / 15 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	3 / 15 (0 / 0)
中国	1						0 / 0 (0 / 0)
	2						0 / 0 (0 / 0)
	3						0 / 0 (0 / 0)
	4						0 / 0 (0 / 0)
	計			0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)
韓国	1						0 / 0 (0 / 0)
	2						0 / 0 (0 / 0)
	3			1 / 5 (/)			1 / 5 (0 / 0)
	4						0 / 0 (0 / 0)
	計			1 / 5 (0 / 0)		0 / 0 (0 / 0)	1 / 5 (0 / 0)
オーストリア (第3国)	1						0 / 0 (0 / 0)
	2						0 / 0 (0 / 0)
	3						0 / 0 (0 / 0)
	4						0 / 0 (0 / 0)
	計			0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)
合計	1	0 / 0 (0 / 0)	5 / 41 (0 / 0)	1 / 5 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	6 / 46 (0 / 0)
	2	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	1 / 4 (0 / 0)	1 / 4 (0 / 0)
	3	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	10 / 52 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	10 / 52 (0 / 0)
	4	0 / 0 (0 / 0)	3 / 22 (3 / 3)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	3 / 22 (3 / 3)
	計	0 / 0 (0 / 0)	8 / 63 (3 / 3)	11 / 57 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	1 / 4 (0 / 0)	20 / 124 (3 / 3)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

※相手国以外の国へ派遣する場合、国名に続けて(第3国)と記入してください。

8-2 国内での交流実績

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
3 / 3 (/)	1 / 1 (/)	2 / 4 (/)	0 / 0 (/)	6 / 8 (0 / 0)

9. 平成30年度経費使用総額

(単位 円)

研究交流経費	国内旅費	158,140	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3,101,661	
	謝金	1,017,872	
	備品・消耗品購入費	689,218	
	その他の経費	1,028,609	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税	0	別経費にて充当
	計	5,995,500	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料	599,550	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。	
合計	6,595,050		